

# 漁海況旬報

No. 14 - 13

## ちば

平成14年5月7日発行

千葉県水産情報通信センター  
千葉県水産研究センター

### サバたもすくい漁の漁況経過と今後の見込み（平成14年5月漁期）

#### 【漁海況の経過】

1～4月の黒潮流路は、遠州灘沖を東進し、三宅島から八丈島の間を通り、房総沖を北東に流れるN型流路で経過しました。5月上旬現在、遠州灘沖の冷水渦の発達に伴い、黒潮は八丈島の南まで蛇行した後、伊豆諸島海域を北上し、房総沖を北東に流れるB型流路です。今後、冷水渦の東進状況から、5月中にはC型になると予測されます。

サバたもすくい漁は、1月13日から三宅島（三本）周辺でゴマサバ対象の操業を開始し、4月下旬までの3か月は、3月の一時を除き、一貫して主漁場は三本でしたが、30日に黒潮がB型に移行すると三宅島南東海域、三宅島、ひょうたん、銭洲でも漁場が形成されました。

1夜1隻あたりの漁獲量は、2月上旬の27.8トンピークを以て以後10～15トンで推移しました。しかし、黒潮の接岸傾向が続き、主漁場の三本の水温が22以上になった4月下旬は魚群がまとまらず、6.0トンと不調になってきています。それ以外の漁場でも小型個体主体に、5～8トンの水揚げでした。

4月30日現在、県内船3隻の（延操業隻数137隻）の総漁獲量はゴマサバ1,841トン（1隻平均13.4トン）で去年同期（県内船4隻、延132隻ゴマサバ1,808トン、1隻平均13.7トン）と同量ですが、昨年同様マサバは全く漁獲されていません。

マサバに関する情報は、4月10～11日に江ノ島丸（神奈川県）がヒョウタン瀬へ行きました。水温は19台後半で、ゴマサバの浮上があり、ハネ釣り、たもすくいで2.1tの漁獲がありました。このときわずかながらマサバが混じりました。房総丸は24日に同海域で魚群探索や漁場調査を行いました。ひょうたん・高瀬では、魚群が浮かず、利島周りでハネ釣りでゴマサバ大中小200kgの漁獲でマサバは混じりませんでした。

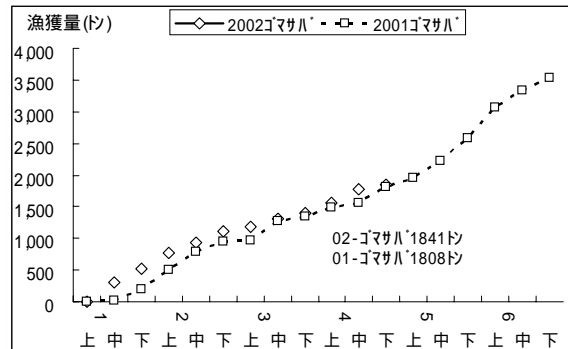


図1 たもすくい旬別累積漁獲量

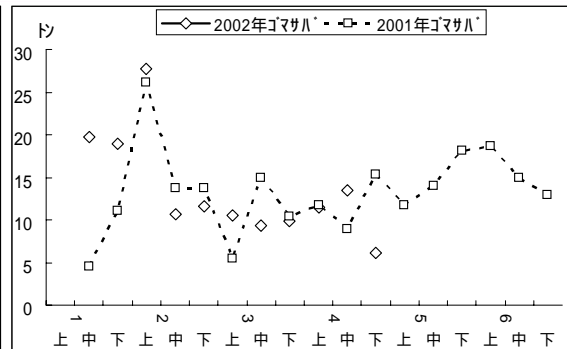


図2 たもすくい漁況経過（1隻平均漁獲量）

### 5月の漁況予測

ゴマサバ：引き続き三宅島周辺での操業となるが、銭洲近海も漁場形成の可能性はある。漁況は1夜1隻平均5～10トン程度で推移する。魚体は引き続き尾叉長33～36cm 主体。

マサバ：伊豆諸島北部海域（大室出し～ひょうたん瀬）での漁場形成は期待できない。

#### 【説明】

今漁期のたもすくい漁では、マサバは全く漁獲されていません。主群になると考えられていた平成12年級群は、予想していたほど高い卓越年級群でなく、13年級群は、最近10年間で最も低い水準にあるといわれていることから、マサバの来遊量は極めて低いと考えられています。そして、昨年同様、ゴマサバに漁獲努力が向いていることから、今漁期では、マサバは漁獲されないまま不漁年となるでしょう。

4月末に、千倉の定置網でマサバが4日間で約7.7トン入網しました。このマサバは、12年級群主体の大中小混じりの魚体で、KG値を調べてみるとまだ産卵期にあるようで、産卵終了に伴う北上群でなく、黒潮の接岸による一時的なものと考えられます。そして、5月後半以降になると、産卵終了したマサバが北上して外房域の定置網に入網し始めるでしょう。しかし、入網する各年級群ともに資源水準が低いので、今年も大きな期待はできないでしょう。

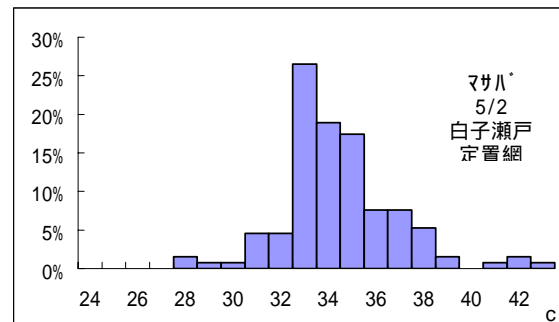


図3 定置網に入網したマサバ尾叉長組成

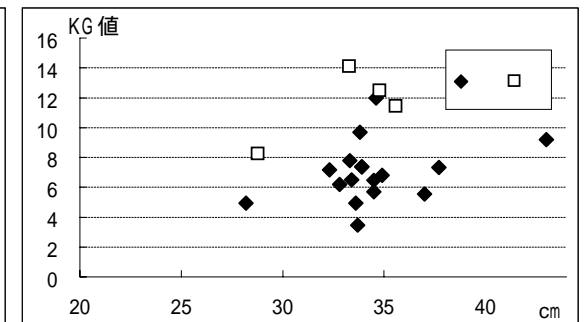


図4 定置網に入網したマサバのKG値

一方、ゴマサバは、平成11年級群の資源水準が高く、漁期始めから一貫して漁獲されています。また、11年級群ほどではありませんが12年級群も資源水準は高いため、引き続き三宅島周辺（三本を含む）が主漁場となると考えられます。しかし、4月下旬以降、水温が22以上が続き魚がまとまらない状況にあります。今後、漁況が低調になったり、小型魚の割合が増加したときには、大型魚の漁場である銭洲近海に漁場が形成される可能性があります。また、黒潮がC型流路をとった場合、黒潮内側の三宅島南東海域にも漁場が形成される可能性もあります。魚体は、引き続き33～36cmが漁獲対象となるでしょう。

現在のところ、黒潮がB型に移行し、伊豆諸島北部海域に暖水波及が継続しているので、マサバは一時的に漁場が形成されるかもしれませんが、資源量としては少ないと考えられるので、これまで同様わずかのマサバよりも多くの漁獲が見込まれるゴマサバに漁獲努力が向けば、5月もマサバの漁場形成の可能性は低いでしょう。